

「測量の教材に」 ドローンを贈る

母校関商工高へ7台

名古屋路建築社長

名古屋路建築(関市千足北)は17日、建設現場の測量やプログラミングの学習に役立ててもらおうと、ドローン7台を関商工高校に寄贈した。

建設業界では建物の点検や測量などを目的にドローンの活用が広がっており、高校生にも最新の技術を学んでもらおうと寄贈した。

プログラミングも可能なため、幅広い学習の教材として使用される。

同校OBの名古屋路社長(35)らが同校を訪れ、使用する建設工学科の3年生7人に手渡した。名古屋路社長は「少しでも多くのことを学んでほしい」、生徒代表の天池健人さん(18)は「測量やインフラ設備の点検の



生徒にドローンを手渡す名古屋路社長(前列中央)＝関市桐ヶ丘、関商工高校

学習に活用したい」と話した。

贈呈式に続き、ドローンの空撮や販売などを手掛け

るROBOZ(郡上市美並町上田)の石田宏樹社長による講習会も行われた。

(浜田悠)